

此日よ句也此交留書有り
均来与共之徳定楽屋道
とて陶系彼屋吉く軒城
金子批きし海より軒城
誠しく登天之心持て
全志君兄弟、出捨
事、成法片、古く指抄
ふ集り、方正呼ぶ、利金
掛法、品、返、留、来、付、申
福通、ふ、先、出、安、心、抄、申
未好、力、此、世、中、の、事、を、人
縁、女、況、也、か、世、人、
在、縁、申

此、在、北、
出、白、書、交、片、
程、よく、
事、所、
おれ、が、甚、性、松、
申、に、損、り、物、
人、に、恥、ぢ、る、也、
事、ト、し、
保、者、
此、中、
申、に、損、り、物、
人、に、恥、ぢ、る、也、
事、ト、し、
保、者、

事トシテハ...

此等ノ...

保者...

在り...

其...

且...

此...

其...

未...

五...

七...

此...

其...

方...

其...

必...

其...

其...

其...

其...

其...

其の興廢もまご甘んじ
不足之令數十急アリテ
中々容易に中身振子
六ヶ敷六ヶ敷とて
要に一時もおれおれ此
あらざおれおる程不事
重なる朱筆も七務お女
又少抄神とて如不事付
とる御身ヲ振子
いの程も七ヶ敷
老母病
上東カ
老母病
御家志まり
此のゆへ先方止まらば
此れ心付て之を
親命不終時
我

物も五ヶ敷カ
却しいま
居れカカ後住人
いれとて伏あらむ
系之上才三本
やうして諸子の
らばとて
一先ある出上
御

トトトの皆々多到る事故
必之見た金を運タリ存
此皆海つて来り
来る電来り
み中にお原怒け
返りありあぞ世保好譲り
吾人共約ト必之
且高年中お原市場
く積りる用沙汰あり
又早く出陣ト必
石田の頃ト必
峰置十金、財ト必
海りら通皆ト必
あらざいのはも立派ト必
海りら内之矣、おト必
何程大金、持海ト必
存るが似情也、指ト必

身ト必
いト必
平場、委ト必
当地金ト必
不ト必
妙ト必

想西明朝在... 振... 早... 集...

稍... 陪... 具...

描... 越... 假... 死...

名... 然... 字... 抄... 者... 郭... 即... 月... 博... 院... 记... 诗... 文... 共... 言... 了... 无... 展... 以... 三... 人... 集... 在... 湖... 山... 枕... 山... 竹... 寺... 七... 類... ヲ... リ... リ...

了才...

日... 道... 与... 持... 有... 一... 瓶... 在... 伏...

楼... 上... 殊... 屯... 一... 院... 寺...

甫... 一... 也... 交... 在... 多... 行... 因... 在...

古... 官... 一... 好... 者... 以... 投... 饮... 陪... 好...

席... 三... 妓... 女... 何... 住... 家... 如... 如...

每... 一... 矣... 多... 如... 之... 待... 读... 乃...

数... 刻... 之...

语... 甚... 甚... 矣... 语... 送... 送... 衣...

香... 烟... 解... 喜... 喜... 山... 枕... 枕...

市... 子... 增... 易... 能... 妙... 新... 河... 河...

空... 之... 宿... 望... 望... 秋... 以... 妾... 妓... 妓...

識... 主... 而...

月... 也... 亦... 亦... 之... 之... 忽... 忽... 忽... 忽...

想... 西... 明... 朝... 在... 此... 深... 深...

中... 和...

識... 而...

風... 之... 氣...

想... 明... 却... 在... 此... 深...

暗... 水... 滿... 之... 子... 老... 少...

眼... 中... 子... 向... 送... 文... 白... 生...

抄... 子... 吉... 好... 以... 送... 也... 也... 也... 乃... 有... 好... 友...

當... 古... 之... 名... 也... 也... 也... 也...

皇... 作... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

誰... 之... 是... 來... 自... 中... 使...

未... 氣... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

西... 車... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

步... 海... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

而... 白... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

在... 矣... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

極... 矣... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

香... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

落... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

猶... 月... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

來... 亦... 也... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

落葉の母は汝と
僧月共在。道の好入
来亦生此連應中

あらむ 廿年あたり
而細より直に追出
外水北知己子
止宿為改ヤニト
一平ふる回らり宿
去音と大坂の案り
上り廿日昔は是
日浪海海皆係
昔付け昂あ文上
河用補定ら上
也未より伊餘ら
海積中及
○廿介其の棟三十八七不其の棟三十八七積其の棟三十八七向其の棟三十八七此其の棟三十八七音
目信也此三の程止宿
改るゆえに去れ
増止宿来り案あり
起るは根く
此の言案改る
柳く知改る者
おま

此由書案... 柳之知... 者... 者...

あらざらぬ... 柳... 子... 及...

やら... 此... 好... 柳... 柳... 柳...

お... 柳... 柳... 柳... 柳...

柳... 柳... 柳... 柳... 柳...

柳... 柳... 柳... 柳... 柳...

柳... 柳... 柳... 柳... 柳...

通りのり 少梅道

いさあ 何れに 志あり
之を 鳴べり 扣り
音も せまき まじり 此目が
笑ぬ じゃあ いのい

くも 調子の 義あり
新曲 録りし 解り
所取 用甘き色
作里 作らぬ 出た
散らぬ 目呈し 所
長し あり 公の 志
座 出る 向き 作らぬ
分 出日 志 志健 用 解
一 年 あり 志 志健 用 解

志の可 社名

山 志 林 志 見 及 志 大

中

三浦 短 志 明 志 志
山 志 方 志 志 志
井 志 志 志 志

中
三浦短我明也
山也方乃就
井忠岩親
秋也
亦淡
出
封
原
子
親
行

者一卷係余舊借友
本野盛亨家可親
一日過鳥羽坂初每
海之在病者彼我
延予談往者示以世
卷之校之則禎之梅贈
兄支坤之親書也

一日過息以於地
海之在病者彼我
延予談往者示以世
老校之則賴之梅贈
兄支峰之親書也
辭之流麗書法之雅
健使人三笑借空字
之云爾

明治廿九年五月

栗香山人誠



頼三樹書六義

早稲田大学図書館

文書27

J 16

9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3



賴三樹書齋印

早稲田大学図書館

文書27

J 16